



CCFの創設者であるDr.Laurie Markerさんが農場主とのミーティングでも、必死でチーターの保護を訴えていても、自分はチーターを何頭撃ち殺したかという自慢話や、更には馬に乗ってチーターを追いつめた挙げ句、疲れたチーターをゴルフクラブやライフル銃で死ぬまで殴り続けた話をする状態で、実際に「このいまいましいチーターを全部連れて、とっととアメリカへ帰れ！」と銃を突き付けられた事すらあったと言います。

しかしDr.Laurie Markerさんはどんな脅しにも屈服せず、諦めずにチーターの首輪に無線機をつけてその動きをチェックし、チーターの習性として広く動き回る動物である事を農場主達に訴え続けました。そんな活動を地道に続けた2年目のある農場主とのミーティングの際に、若い農場主が、自分が幼い頃に父親が農場を横切っただけのチーターを撃ち殺した時の話を「僕はその後悔を忘れられない。チーターは人間よりも長く生きて来た動物なのに、今や危機的状況にある。チーターが農場を自由に走り回れるようにしよう!」と Dr.Laurie Markerさんに話してくれたと言います。

この日以来、Dr.Laurie Markerさんの主張は徐々に受け入れられるようになり、現在ではナミビアの3分の2の農場がチーターが走り回る事を認めていると言います。

私達、JCCSでは、近い将来、日本を始めとしたアジアにCCFを広めるべくCCFJ“CCF Japan”となり、CCFのアジアの窓口として活動する予定です。

CCFJAPANになれば、親を密猟者に殺され、野生に還れなくなってしまったチーターを預かり、チーター専門の保護施設を作り、日本の多くのサファリパークで実施しているような、赤ちゃんライオンや赤ちゃんトラに触れ合ったり出来る、チーターふれあいパークを作るプロジェクトを計画しています。

日本の皆さんにもっとチーターへの関心を持って頂くきっかけ作りが出来れば良いと思っています。

チーターの性格は穏やかで温順、人にもよくなつき馴れます。前号でも簡単にお話しましたが、チーターと人との歴史は意外と古く、遡ること古代エジプトの時代から、インドの王族などもチーターを飼い馴らして狩りをさせる話が多く、例を挙げると枚挙に暇がない程度です。また、1970年以前はハリウッドの女優がステータス・シンボルとしてペットにもしていました。カラカルも人に馴れるとして最近日本でもTVなどに紹介されていますが、中でも人気のあったのは、地上最速のスピードを誇るチーターで、驚くのは成獣を捕らえて来ても3日もあれば人に慣れ、狩の訓練に使われていたと言います。



チーターに関心を持たれた方は今、ワーナー・ブラザーズ(Warner Bros.)という映画会社より「Duma」というチーターの映画が公開されていてインターネットでその一部を見る事が出来ますので是非ご覧になってみてください。

「Duma」(ドゥーマ、と発音します。とはタンザニアで話されているスワヒリ語でチーターを意味します)元々は「ぼくのともだちドゥームズ」という実話が絵本になって生まれた映画です。❸

「ぼくのともだちドゥームズ」出版社: B L 出版
キサン ホップクラフト (著), キャロル・コースラ ホップクラフト (著),
Xan Hopcraft (原著), Carol Cawthra Hopcraft (原著), あかお ひでこ (翻訳)

「Duma」公式サイト: <http://dumamovie.warnerbros.com/>
*JCCS“Japan Cheetah Conservation Society”日本チーター保存協会
**CCF“Cheetah Conservation Fund”チーター保護基金



問合先:日本チーター保存協会/JCCS “Japan Cheetah Conservation Society”

担当:渡邊

<http://www.jccs-cheetah.org/>
info@jccs-cheetah.org

渡邊 久美子